

古典語指導から見た現代語敬語の問題点

(『言語の研究』8号)
2021年5月)

竹部 歩美

はじめに

本稿は、中古（平安時代）和文や擬古文（以下、古典文）を資料として、これを日本語学の観点から学ぶ大学生が施した現代語訳に、「お思いになる」「お恨みになる」のような尊敬語オ～ニナルではなく、「お思いなさる/思いなさる」「お恨みなさる/恨みなさる」のような尊敬語オ～ナサル・～ナサルが頻出することと、その背景について述べようとするものである。

現代日本語の敬語の正しい運用は、敬語についての適切な教育を受けていなければ、日本語母語話者にとってすら容易ならざるものとなっているという深刻な社会的実態がある。殊に、近時の日本語母語話者の大学生の敬語に関する基礎知識は不足していると言わざるを得ず、その運用には危ういところがある。

古典文の日本語学的読解においては、(狭義の)⁽¹⁾古典語の語彙語法の学習そのものが容易ではないところへ、古典文に頻出する敬語の学習・理解と現代語敬語への置き換え（現代語訳）の作業が加わるので、古典語・現代語いずれについても、敬語の知識が十分ではない者にとっては、古典文の現代語訳の作業は非常に困難なものとなろうと想像される。そして、実際に、大学生によって施された現代語訳のなかの現代語敬語には誤用が散見され、また、何故か、尊敬語オ～ナサル/～ナサルが頻出する傾向が見出されもするのである。

そこで、本稿では、大学生の古典文の現代語訳に見られる尊敬語に注目し、その問題点について述べる。そして、その問題の生ずる背景を、大学生への聞き取り調査に基づいて考える。

1. 現代語敬語の尊敬語

本稿は尊敬語オ～ナサル・～ナサルを切り口としているので、まず、動詞の尊敬語形について整理しておきたい。

1-1. 動詞の尊敬語形

動詞を尊敬語形にしようとしたとき、その最も基本的な方法は【表1】のようにまとめられる。

【表1】のうち、特定形・オ～ニナル・～ナサルの3つの棲み分けについては、菊地（1994）が「尊敬語に習熟していく」「スマート」で「簡単／安全／自然で、敬度も十分な尊敬語の使い方」として示しているところのものである。また、日本語教育用の書籍類や日本語学習者用の初級テ

キストなどを参照しても、特定形（ナサルはスルの特定形として扱われるようである）、オ～ニナル、そして、簡単な尊敬語として助動詞レル・ラレルが示されているものを見る。このことから、【表1】は、現代語の尊敬語を運用してゆくうえで体得しておくべき初歩的な事項であろうと考える⁽³⁾。

ただし、実際の動詞の尊敬語形は【表1】よりも多様である。例えば、オ見エニナル（来ルの尊敬語）やゴ利用ニナルは【表1】のいずれにも該当しない。

【表1 動詞の尊敬語形（基本）】

特定形		いらっしゃる・召しあがる
お～になる	サ変動詞以外の 和語動詞 ⁽⁴⁾	お書きになる・お読みになる
～なさる	サ変動詞	なさる
		使用なさる・予約なさる
		はらはらなさる・スケッチなさる
れる・られる	動詞未然形に下接	書かれる・食べられる・される

動詞の尊敬語形の有り様を2007年2月に文化審議会から答申された「敬語の指針」（以下、「指針」）、ならびに、菊地（1994・1996）に基づいて整理すると概ね【表2】のようになる。

【表2 動詞の尊敬語形（実際）】

特定形		いらっしゃる・召しあがる
お～になる	特定形	お召しあがりになる・お見えになる
	サ変動詞以外の 和語動詞 ⁽⁵⁾	お書きになる・お読みになる
ご～になる	漢語サ変動詞 ⁽⁶⁾	ご利用になる・ご卒業になる
～なさる	サ変動詞	なさる 使用なさる・予約なさる はらはらなさる・スケッチなさる
ご～なさる	漢語サ変動詞 ⁽⁷⁾	ご利用なさる・ご卒業なさる
れる・られる	動詞未然形に下接	書かれる・食べられる・される

適切な言葉遣いが要求される日本社会においては、【表1】だけでなく、【表2】のような多様な表現形式を適切に使いこなすことが求められる⁽⁸⁾。

1-2. 現代語における尊敬語オ～ナサルと～ナサル

ところで、【表1】・【表2】にはオ～ナサル・～ナサルはサ変動詞の尊敬語形とあり、「お思い

なさる」「思いなさる」のような〈オ+サ変動詞以外の和語動詞+ナサル〉〈サ変動詞以外の和語動詞+ナサル〉は含まれない。これは、以下に述べる事柄があるためである。

「指針」には、～ナサルと、次の(1)のようにゴ～ナサルについての詳述があり、オ～ナサルに関する詳述はない。接頭語ゴを冠するということは、ゴに下接する語が漢語であることを意味するので、～ナサル・ゴ～ナサルはサ変動詞の尊敬語化形式であると読みとれる。

- (1)「ご……なさる」の形は、サ変動詞(「……する」の形をした動詞)についてののみ、その「する」を「なさる」に代えたとともに「ご」を付けて作ることができる。ただし、「ご」がなじまない語については、作ることができない

一方、菊地(1994)は～ナサルについては「サ変動詞についてのみ使うという述べ方をしてよいと思われる」とし、オ/ゴ～ナサルについては「サ変に限らず作ることができる」とするが、菊地(1996)では(2)のように述べてもいる(下線は本稿執筆者による)。

- (2)「お～なさる」のほうはやや古めかしく、「ご～なさる」に比べてあまり使いませんが、この点多少目をつぶれば、基本的には「お/ご～なさる」は「お～ご～になる」と同様の守備範囲だといえます。

また、尾崎(2009)も次のように述べている(下線は本稿執筆者による)。

- (3)「なさる」はサ変動詞以外にも付きえますが、「考えなさる」「食べなさる」のようになり古風に響くため、現代語としては使われません。ただし、「お～なさる」とすれば、「お～になる」と同程度の敬意を持つ尊敬語として、「お考えなさる」「お送りなさる」のように今でも使われます(ただしこれもやや古風に響きます)。

さらに、「現代日本語書き言葉均衡コーパス」の図書館・書籍、特定目的・ブログを資料としてオ～ニナルとオ～ナサルについて調査した小椋(2019)は、和語の尊敬語形はオ～ニナルが用いられる傾向が高く、一方で、オ～ナサルは「おやすみなさい」「おかえりなさい」といった定型の挨拶表現での使用率が高く、かつ、命令形(オ～ナサイ)での出現率が高いことから、オ～ナサルは「限定された役割で生き残っている形式⁽⁹⁾」であるとしている。

これらをふまえると、つまり、「お思いなさる」「思いなさる」のような〈オ+サ変動詞以外の和語動詞+ナサル〉や〈サ変動詞以外の和語動詞+ナサル〉は、誤用ではない(菊地 1996の言うように「守備範囲」にはある)ものの、現代語(の共通語⁽¹⁰⁾)の、今現在の尊敬語形としては日常的・一般的なものとは言い難いと言えるのである。

現在の(少なくとも共通語を用いての)言語生活において、〈オ+サ変動詞以外の和語動詞+ナサル〉や〈サ変動詞以外の和語動詞+ナサル〉を頻繁に見聞きすることはないように思われる。

ところが、古典文の現代語訳となった途端に、「思いなさる」「恨みなさる」の類が頻繁に現れるため、本稿執筆者は不審に思うのである。

2. 古典語の敬語

本節からは〈オ+サ変動詞以外の和語動詞+ナサル〉や〈サ変動詞以外の和語動詞+ナサル〉が古典文の現代語訳に頻出する背景について考えてゆく。

現代語敬語の体系に関して、「指針」では、【表3】の左枠のように、敬語を、尊敬語・謙讓語Ⅰ・謙讓語Ⅱ・丁寧語・美化語の5種に分類している。古典語の敬語の体系と機能は、現代語敬語のそれと概ね対応しており、その体系は【表3】から美化語を除いた4つである⁽¹¹⁾⁽¹²⁾ととらえて概ねよいと考える。

【表3 敬語の体系】

5分類			機能	3分類
尊敬語	主体敬語 (為手尊敬)	素材敬語	話題の中に登場する動作の主体を高める。	尊敬語
謙讓語Ⅰ	客体敬語 (受手尊敬)		話題の中に登場する動作の客体を高める。	謙讓語
謙讓語Ⅱ	対話敬語	自卑敬語	話題の中に登場する動作主(主語)である私・私側を低め、聞き手にあらたまりかしこまる。	
丁寧語		対者敬語	聞き手を高める。	丁寧語
美化語			物事を美化する。話し手の品位を表す。	

現代語についてもそうであるように、古典語の指導にあたる際においても、【表3】に基づいた敬語の体系や機能の概説を欠かすことはできない。その理由は2つある。

第一に、古典語についても現代語でも敬語の体系は従来の3分類でとらえられる傾向が顕著であり、(3分類の)謙讓語は自分(話し手・書き手である「私」)を低めるものだという認識がいまだ強固なためである。すぐ後で述べるように、古典語にも謙讓語Ⅰ・謙讓語Ⅱはある。客体を高める機能を持つ謙讓語Ⅰと自卑敬語である謙讓語Ⅱは明確に区別されなければ古典文の精確な読解はできない。

第二に、「敬語=相手、つまり、聞き手に敬意を表すもの」という認識が非常に根強く、素材敬語の概念は希薄であり、また、尊敬語と謙讓語Ⅰによって高めるのは聞き手だけとは限らないのだという点の理解に欠けている場合が多いからである。現代語において実際の場面で最も多いのは(4)のように聞き手を高める場合であろうが、(5)のように聞き手以外、かつ、場面を共有していない第三者の場合もある⁽¹³⁾。古典文では聞き手以外の人物を高める場合が非常に多い——(6)のように地の文に現れる敬語は書き手(話し手)が読み手(聞き手)を高めているの

ではないことからすでに明らかである——ため、「敬語＝相手、つまり、聞き手へ敬意を表すもの」という考え方は、古典語の語法の理解と古典文の精確な読解の妨げとなる。

(4) (あなたは) 私どもの新製品の御案内を御覧になりましたでしょうか。

(5) (出張中で不在の上司の言葉を他の社員に伝える際に)

部長がそうおっしゃっていました。

(6) はじめより「我は。」と思ひあがりたまへる御方々…〈源氏物語・桐壺〉

古典語の動詞の敬体を、ごくおおまかにまとめると【表4】のようになる。古典語であれ現代語であれ、敬語語彙の所属は5分類（古典語は美化語を除く4つ）のいずれかに定まっているので、それぞれの語の持つ機能と適用も自明となる。

【表4 古典語動詞の敬体】

	敬体	常体	現代語訳
尊敬語	のたまふ	言ふ	おっしゃる
	御覧ず	見る	ご覧になる
	聞こしめす	聞く	お聞きになる
	ものし+たまふ	あり	いらっしゃる
	泣き+たまふ	泣く	お泣きになる
謙譲語Ⅰ	乗ら+る	乗る	乗られる・お乗りになる
	参る	来	参上する
	申す	言う	申しあげる
	問ひ+きこゆ	聞く（尋ぬ）	お尋ねする・お尋ね申しあげる ⁽¹⁶⁾
謙譲語Ⅱ	求め+たてまつる	探す	お探しする・お探し申しあげる
	まかる	行く	参ります
	まうでく	来	やってまいります
	思ひ+たまふる	思ふ	存じます
丁寧語	はべり	あり	あります・ございます
	散り+はべり	散る	散ります

ただし、古典語敬語と現代語敬語とで異なるところはある。(7)(8)の下線部には〈受身+敬語〉が見られるが、(7)「(人々から)源氏がお褒められになる」、(8)「(私があなたから)お嫌われする／お嫌われ申しあげる」といった表現は現代語では（少なくとも日常的には）しない。そして、(7)(8)は受身文であるから、先の【表3】にあるように「尊敬語は動作の主体を高める」「謙譲語Ⅰは動作の客体を高める」では説明し得ない。

また、古典語敬語と現代語敬語との対応が判然としないという場合もある。(9)の思フの尊敬語の⁽¹⁴⁾待遇の度合いは、特定形>補助動詞下接型>助動詞下接型の順に高いとされるが、これらが現代語の思ウの尊敬語形とどのように対応するか（あるいは、させるべきであるか）は明らか

ではない。⁽¹⁵⁾

このように、現代語敬語と古典語敬語には異なる点があり、古典語の語法の理解の点でも現代語訳の点においても難しいところが部分的にはある。

- (7) (宮中での管弦の遊びの) 時々につけて (源氏が) 世にめでられたまひし御有様
〈源氏物語・明石〉
- (8) (私=源氏が、紫上から) うとまれたてまつりしふしぶしを思ひ出づるさへ
〈源氏物語・明石〉

(9)

古典語		現代語		
		案1	案2	案3
<div>高 ↑ ↓ 低</div>	思しめす	お思いになる	お思いあそばす	お思いあそばす
	思ほす		お思いになる	お思いになる
	思す			
	思ひたまふ			
	思はる	思われる	思われる	思われる

3. 現代語訳に見られる現代語の尊敬語

先述のとおり、古典語の敬語には難解な点はあるものの、本稿が話題としている尊敬語に関しては、多くの場合は、先の【表1】・【表2】と【表4】に基づき、対応させ、[古典語の尊敬語キコシメス→古典語の常体は聞ク→これは現代語の聞クに相当する→現代語の聞クの尊敬語はオ聞キニナル]といった具合に考えてゆけば、古典語敬語の現代語訳はまったく手の付けられない難題ではないものと思われるのだが、古典語を学ぶ大学生の現代語訳にはときに不審なものが現れることがある。以下、具体例を見てゆく。

3-1. 誤用

まず、誤用を、以下に6つに整理して挙げる。

①《二重敬語》

周知のとおり、現代語では二重敬語は原則誤りであるが、現代語訳にはしばしば見られる。(10)～(13)は最高敬語セ/サセ+タマフの訳出を意図したために生じた誤用であると推測される。ただし、(14)(15)のようにセ/サセ+タマフ以外であっても二重敬語が見られることがある。また、二重敬語は、(10)(11)のようなオ～ニナル+レルだけでなく、(12)(13)のように(オ)～ナサル+レルも見られる。

- (10) *音をお立てになられません（音もせさせたまはず）
- (11) *御階の下にお立ちになられて（御階の下に立たせたまひて）
- (12) *ひどく驚きなされる。（御覧じて驚かせたまふ）
- (13) *時々お話なされる（入道にをりをり語らはせたまふ。）
- (14) *とおっしゃられて（…と、のたまひて）
- (15) *おいたわしくお思いになられて（恐ろしいとほしと思して）

②《オラレル》

オラレルは日常的に頻繁に見聞きするものではある。しかし、謙譲語Ⅱオル+助動詞レルであり、尊敬表現にはなり得ないことは「指針」をはじめ各所で指摘されている。そのオラレルが、現代語訳にもしばしばみられる。

- (16) *こうしておられる（かくておはしますらむ御有様）
- (17) *懲らしめておられます（帰りまゐりたるとて調じたまふ）

③《尊敬語と謙譲語Ⅰの混同》

尊敬語と謙譲語Ⅰの混同も、近時、頻繁に見聞きするが、現代語訳にも（18）のように見られる場合がある。また、（19）のようなオ/ゴ～サレルは、これを使用する者がいくら「オ/ゴ～（名詞）+サ+レル（尊敬語）」を意図していようと、「オ/ゴ～スル（謙譲語Ⅰ）+レル（尊敬語）」と見られるので適切とは言い難い。

- (18) *ご成長したので（生ひ出でたまへれば）
- (19) *気の毒にご思案されて（いとほしと思して）

④《オ～ニナルとオ～ナサルの混淆》

（20）～（23）に見られるオ～ニナルは、オ～ニナルと～ナサルの混淆によって生じたものと考えられる。あるいは、筆の逸れであろうか。

- (20) *お許しになさって（思し許して見たまふ）
- (21) *お書きになさった（久しく書き出でたまへり）
- (22) *お呼びになさると（…とて召せば）
- (23) *お思いになさる（あはれと思ひたまふ）

⑤《接頭語オ/ゴの混同》

接頭語「御」の棲み分けは、オ+和語／ゴ+漢語を基本とするが、これに合致しない場合があること、また、接頭語はゴよりもオが使用される傾向があることは知られている。しかし、現代

語訳にはときに疑義の生ずるものが見られることがある。

(24) *お病気になられて（そこはかとう煩ひたまひて）

⑥《オ/ゴ〜ニナルの誤用》

オ/ゴ〜ニナルの接頭語がない、あるいは、ニナルがないものを誤用として⑥にまとめる。これらは複合語の訳出の折に現れる傾向がある。筆の逸れとも考えられるが、適当な現代語の尊敬語形への置き換えに窮した結果とも推測される。

(25) *…と、落ち着きになった（…と、思ししづめたり）

(26) *お思ひ嘆くこと（思し嘆くことさまざまなり。）

(27) *お呼び寄せながら（召し寄せつつ）

(28) *お思ひおっしゃる（思しのたまはする）

(29) *お思ひ尋ねられる（世にあるものと思し尋ぬるなどこそ）

3-2. 疑義の生ずる点

以下に挙げる4つは、現代語の尊敬語としては誤りとは言いがたい。しかし、古典語敬語と現代語敬語のすり合わせという点では疑義がある。また、現代語の一般的な敬語運用としては疑義がある。

⑦《助動詞レル・ラレルの使用》

現代語の助動詞レル・ラレルの待遇の度合は他の尊敬語に比して低い。それを、古典語の尊敬の補助動詞タマフや尊敬語動詞にあてて場合がしばしばみられるが、待遇の度合いのすり合わせという点で適当であるか疑問がある。

(30) 思いつかれる（さまことにも思ひおよびたまふ御心）

(31) 遠ざけられてしまわれました（さし離れたたまひにければ）

(32) 主上にも聞かれて（上にも聞こしめして）

⑧《特別な五段活用動詞の命令形》

特別五段活用のナサル・クダサルの命令形は「一い（なさい・⁽¹⁷⁾ください）」が一般的であり、「一れ」は「現代語としては古めかしい印象を与える」（浅川・竹部 2014）ものであるが、(33) (34) のように「一れ」が現れることがある。

(33) 死んでくだされ（おいらかに死にたまひね）

(34) 死になされ（おいらかに死にたまひね）

⑨《特定形の不使用》

敬語運用においては特定形がある場合にはそれを用いるのが望ましかろう。(35) (36)は「敬語を使い慣れている人なら、概して使わない形」(菊地 1994)ではないか。しかし、次のようにオ～ニナルやナサルを用いた訳出が見られることがある。

- (35) ? お行きになる (渡りたまはむこと)
(36) ? 着^きなさって (直衣のなえはめるを着たまひて)

⑩《オ～ナサル・～ナサルの頻出》

古典文の現代語訳にはサ変動詞以外の語の訳出にもオ/ゴ～ナサルをあてる例が頻出する。(37) (43)は「現代語のサ変動詞スルを尊敬語形に」する作業であるが、ナサルではなく「シ+ナサル」とある。このことから、(37)～(44)は補助動詞タマフをナサルに置き換えており、(45) (46)は補助動詞オハス・オハシマス^{ナサル}をナサルに単純に・機械的に置き換えているものと考えられる。一方で、(47) (48)のように動詞の訳出にも見られる。このことから、古典語を学ぶ大学生には「ナサルを付ければ尊敬語になる」、あるいは、「尊敬語だから動詞にナサルを下接させておく」という意識があるのではないかと推測される。

- (37) 唱歌をしなさる (かつ読みつつ唱歌をしたまふ)
(38) お戻りなさる (たち返りたまふ)
(39) 生まれなさった／お生まれなさった (生まれたまへる人)
(40) 着なさって (直衣のなえはめるを着たまひて)
(41) 聞いておぼえていなさらない (聞き置きたまはぬ世のことども)
(42) ありなさる (ものしたまふ)
(43) 聞いたりしなさっただろう (…を、聞きやしたまひつらむ)
(44) 流罪にしなさった (犬を流させたまひけるが)
(45) 巡りあいしなさった／遭いしなさった (めぐりおはしたる)
(46) お聞きなつておこしなさった (上にも聞こしめして渡りおはしましたり)
(47) お弾きなさる (かくなむあそばせど〔遊ぶ・楽器を演奏するの意〕)
(48) 不本意だと思いなさるが (ずずろなりと思せど)

3-3. 現代語としてのオ～ナサル/ナサル

〈オ+サ変動詞以外の和語動詞+ナサル〉〈サ変動詞以外の和語動詞+ナサル〉は現代語の尊敬語形としては日常的・一般的とはいえないことは先述のとおりである。近時の大学生も(おそらく)耳にすることは頻繁にはなかろうと思われる。それにもかかわらず、古典文の現代語訳にはこれが頻出する。

そこで、勤務校の学生3名⁽¹⁸⁾に対し、現代語訳に尊敬語オ～ナサル・～ナサルを用いる理由を尋ねた。

質問1：(先の(38)について) なぜタチ返リタマフの現代語訳を「お戻りなさる」としたのか。

回答1：古語辞典のタマフの項目の意味記述にオ～ナサル・～ナサルとあるから。
注釈書の現代語訳に～ナサルが使用されているから。

質問2：現代語の「戻る」を尊敬語形にしてみなさい。

回答2：戻ラレル。戻リナサル。オ戻リナサル。オ戻リニナル。

質問3：オ戻リナサルや戻リナサルという現代語訳に違和感はないのか。また、オ思イナサルや思イナサルと見聞きしたときに現代語として違和感をおぼえることはないのか。

回答3：古典語タマフは機械的にナサルに置き換えればよいと考えている。

タマフ＝ナサルだと高校で指導を受けた。

大学受験のテクニックとしてその置き換えを身に着けた。

現代語としてはおかしいような気がするが、敬語に自信がなく、良し悪しや自然か不自然かがわからないので現代語訳をこうしておいた。

3-4. 古語辞典と注釈書の記述

ここで直上の回答1にあった古語辞典の記述について確認しておきたい。古語辞典類の補助動詞タマフの意味記述にはオ～ニナル・～ナサルがある(オ～ナサルについては記述がないものもある)。ただし、オ～ニナルとオ～ナサル/～ナサルの使い分け——先の【表1】や【表2】のよう——は記されない。

(49) [補助動ハ四] {は・ひ・ふ・ふ・へ・へ} ① (動詞の連用形に付いて) 動作者に対する敬意を表す。お…になる。お…なさる。…て下さる。

中田祝夫・和田利政・北原保雄編(1983)『古語大辞典』小学館

(50) 《補助動詞ハ四》[尊敬語。活用語の連用形に付いて、その動作をする人をうやまう意をそえる] お～になる。～なさる。

林巨樹・安藤千鶴子編(1998)『古語林』大修館書店

(51) [補助動詞ハ行四段] {は・ひ・ふ・ふ・へ・へ} 《動詞・助動詞「る」「らる」「す」「さす」「しむ」の連用形に付いて》動作の主を尊敬する意を表す。…なさる。お…になる。

北原保雄編(2004)『小学館 全文全訳古語辞典』小学館

(japanknowledge: <https://japanknowledge.com/lib/display/?lid=200380001242400>)

(52) (補助動ハ四) ①動詞・助動詞^{ママ}受身の「る」「らる」、使役の「す」「さす」「しむ」の連用形に付いて、尊敬の意を表す。お～になる。お～なさる。

松村明・山口明穂・和田 利政編(2008)『旺文社古語辞典 第10版』旺文社

- (53) 補助動詞として用いる。動詞、または、動詞に「て」のついた形に付く。(1)〔一〕(1)の補助動詞用法) その動作の主を尊敬する意を表わす。(イ) その動作を、恩恵を受ける者のためにしてくれるの意のもの。…してくださる。(ロ) その動作を尊敬表現にするために「たまう」が用いられているもの。…なさる。お…になる。

日本国語大辞典第2版編集委員会(2001)『日本国語大辞典 第2版 第8巻』
小学館

また、今、仮に、『源氏物語』の日本語学的読解にとり組もうとしたとき、注釈書として以下のものを参照し、また、『源氏物語』を資料に古典語を学習しようとする学生にも強く薦めるが、その現代語訳には問題点のある場合もある。

- ・山岸徳平(1958)『日本古典文学大系 源氏物語』岩波書店(以下、旧大系)
- ・玉上琢弥(1964)『源氏物語評釈』角川書店(以下、玉上評釈)
- ・阿部秋生・今井源衛・秋山虔・鈴木日出男(1970)『日本古典文学全集 源氏物語』小学館(以下、旧全集)
- ・石田穰二・清水好子(1977)『新潮日本古典集成 源氏物語』新潮社(以下、集成)
- ・柳井滋・室伏信助・大朝雄二・鈴木日出男・藤井貞和・今西祐一郎(1993)『新日本古典文学大系 源氏物語』岩波書店
- ・阿部秋生・今井源衛・秋山虔・鈴木日出男(1994)『新編日本古典文学全集 源氏物語』小学館(以下、新全集)⁽²⁰⁾

その問題点をいくつか挙げる。

『旧大系』には(54)(55)のように〈オ+サ変動詞以外の和語動詞+ナサル〉〈サ変動詞以外の和語動詞+ナサル〉が見られ、かつ、頻出する。『玉上評釈』にも(56)のように現れることがある。

- (54) 「…」と、お思いなさらずには居られない際に(「…」と思さるるに)
- (55) 乱りがはしく(乱雑に) 書きなされた(そこはかたく書き乱りたまへる)
- (56) 約束が違うと思ひなさろう、それではあわす顔がないとお思いになるので
(言ひしにたがふと思さむも心恥づかしう思さるれば)

『旧全集』には次のように尊敬語と謙譲語Ⅰの混同があり、二重敬語は頻出する。⁽²¹⁾

- (57) それが人か何かとさえも、お見分けできそうにもなく(人か何ぞとだに御覧じわくべくもあらず)
- (58) お立ち去りになられた(立ち去りたまひぬ)

『集成』には次のようにイラッシャルをイラレル・オラレルとする箇所がある。

(59) 物に寄りかかっていられると (ただ寄りゐたまへるに)

(60) 悲しい思いをしておられる (ものをさまざま思し続くる)

以上をふまえると、古典語を学ぶ大学生は次のような状況に置かれているものと考えられる。

- ・古典語に類出する尊敬語補助動詞を現代語訳に反映させる際に機械的に「動詞＋ナサル」に置き換えるよう身につけてしまっている。
- ・身につけていることと、古語辞典の記述、注釈書類の記述、大学の講義時の説明とが合致しない。

このような状況にあるため、古典文に現れる尊敬語の現代語訳は身につけてしまい慣れてしまった形——ナサルへの機械的置き換え——のままにしているものと考えられる。

古語辞典と注釈書類は古典文の読解には必須のものであるが、使用する者に敬語の基礎的知識が欠如している場合、適当な敬語の用い方を判断することは難しく、また、記述の誤りを認識することも難しく、参考・見本・手本にならない可能性がある。

4. 大学生の現代語敬語に対する意識

ところで、第3節－3に「敬語に不慣れで自信がない」という声があったことを示したが、実際のところ、近時の大学生は現代語敬語の何に苦慮しているのか、その一端を以下に見てみたい。

本稿執筆者は、2020年度、勤務校において学部学生を対象とした「敬語実践講座」を開催し、敬語の誤用を例示しながら規範的な敬語の解説を行うという形式での現代語敬語の指導を行った。参加者は4年生2名、3年生9名（うち日本語学習者1名）、2年生6名（うち日本語学習者1名）、1年生11名の計28名である。講座終了後に、講座の満足度等を問うGoogleフォームによる無記名のアンケート調査を実施し、26名から回答を得た。

このアンケートには、「大学入学以後、敬語の使い方で困ったことはありますか。」「講座を受講しての感想（初めて知ったこと、興味深く感じたこと、疑問に思ったこと、改善してほしいことなど）を教えてください。」という2つの記述式の質問項目がある。そこに記されていた内容をおおまかに整理し、〈(a) 敬語全般について・(b) 敬語語彙に関して・(c) 尊敬語に関して・(d) 謙譲語Ⅰと謙譲語Ⅱに関して・(e) 丁寧語に関して・(f) その他〉の区分を付すと、次のようになる。

質問Ⅰ：大学入学以後、敬語の使い方で困ったことはありますか。

回答1：(学生として) 教員との対話やメール送信の際。… (a)

(社会人として) 接客時の会話の際。… (a)

対者に対して敬語を用いて即応できない。… (a)

自分の敬語運用が正しいのか自信がない。… (a)

質問2：講座を受講しての感想(初めて知ったこと、興味深く感じたこと、疑問に思ったこと、改善してほしいことなど)を教えてください。

回答2：敬語は難しい。… (a)

複数の言い方(敬体)があり、使いこなせるか不安だ。… (a) (b) (c)

敬語語彙を増やすことが重要だ。… (b) (c) (d)

助動詞レル／ラレルだけでは不十分だと分かった。… (c)

謙譲語を尊敬語だと勘違いしていた／間違えて使用していた／あいまいだったことがわかった。… (c) (d)

オ～スルが謙譲語Ⅰだと初めて知った。… (d)

デス・マスが使えれば敬語表現として十分だと思っていたが、それが敬語の一部でしかないと知って驚いた。… (e)

日常的に見聞きする敬語やインターネットに見られる敬語には誤りが多くあると感じた。… (f)

また、古典語を学習している大学生(国内の4年制大学。4年生3名、3年生11名(うち日本語学習者1名))に対しても、「現代語の敬語の難しさ」について口頭で尋ねた。その内容をおおまかに整理すると次のようになる。

質問：みなさんにとって現代語の敬語の何が・どこが・どのように難しいのですか。

回答：敬語運用に不慣れであり、自信がない。… (a)

自分の用いる敬語には敬意が不足している感じがする。… (a)

尊敬語には尊敬語にするための簡単な型(オッシャルのような特定形や、助動詞レル・ラレルの下接のこと)があるが、謙譲語にはそれがない。… (c) (d)

謙譲語は自分を低めるものだが、それが(オ渡シスルのように)オからはじまるので自分を高めているように感じられ、運用に躊躇する。… (d)

謙譲語Ⅰと謙譲語Ⅱの違いがわからない。… (d)

周囲の人々の敬語の間違いやおかしさには気づくが、それではその場合自分ならばどうすべきなのかわからない。… (a) (f)

アルバイト先の先輩の言葉遣いを真似している。社会人の言葉遣いとしては不適切だと言われていることは理解しているが、正しい敬語を自分が身につけているわけではないので真似をするしかない。… (a) (f)

周囲の人がサセイタダクを多用するので、自分も使うべきなのかと思い使っている

が、ある日、自分の使ったサセテイタダクに対して、その使用は過剰だと指導を受け、困惑している。… (f)

これらをふまえると、近時の大学生の敬語の基礎知識や運用能力は、次のような状況にあるものと推測される。

- (61) 〈(c) から〉尊敬表現形式の一部（助動詞レル・ラレルと特定形）は体得していて運用もできるが、その他はあいまいである。
- (62) 〈(d) から〉謙譲語Ⅰと謙譲語Ⅱの機能や表現形式の理解は十分ではない。
- (63) 〈(c) (d) から〉尊敬語の表現形式の習得が不十分で、かつ、謙譲語に理解が及んでいないため、尊敬語と謙譲語Ⅰの区別（オ～ニナルとオ～スルの区別など）や適切な運用が難しい。
- (64) 〈(e) から〉丁寧語デス・マスは運用できる。
- (65) 〈(b) ～ (e) を総じて〉敬語が総体的・体系的に身につけていないので、多様な表現形式を駆使することが難しい（つまり (a) にまとめられる回答となる）。

このように見てみると、古典文の現代語訳に尊敬語オ～ナサル/～ナサルが頻出するのは、(61) (65) に起因しているものと思われる。⁽²²⁾ 古典語の尊敬語補助動詞を機械的に～ナサルに置き換えはするものの、尊敬語の体系的習得ができていないため、〈オ+サ変動詞以外の和語動詞+ナサル〉〈サ変動詞以外の和語動詞+ナサル〉という尊敬語形の良し悪しや自然・不自然の判断に至り得ないのだと考えられる。

(f) にも注目しなければならない。(f) は、換言すれば「現在の日本社会には正確な敬語運用の見本や手本を示してくれるものが少ない（あるいは、ない）」ということである。インターネットや敬語指南書に常に正しい情報が示されているわけではなく、⁽²³⁾ 社会人・日本語母語話者が、みな、常に、正確な敬語を運用しているとも限らない。古典語の学習においては、参照すべき注釈書類に一部疑義があるのであった。そのなかで、大学生は、敬語運用能力を体得していなければならず、社会人のたしなみとして正確で適切な言葉遣いが要求されているのである。

おわりに

本稿では、大学生が施した古典文の現代語訳に尊敬語オ～ナサル/～ナサルが頻出することとその背景について考察してきた。そして、背景には次のような問題が可能性としてあることを指摘した。

- 1、尊敬表現形式の一部は体得しているが、ほかはあいまいである。
- 2、謙譲語Ⅰと謙譲語Ⅱの機能や表現形式の理解が不十分である。
- 3、尊敬語の表現形式の習得が不十分であり、同時に、謙譲語を理解していない。

- 4、丁寧語デス・マスは運用できる。
- 5、敬語全体の体系的習得が不十分であるため、多様な敬語表現形式の使い分けが困難である。
- 6、正確な敬語運用の見本や手本を示してくれるものが現在の社会にきわめて少ない。
- 7、尊敬語オ～ナサル/～ナサルが古典文の現代語訳に類出するのは、古典文に類出する敬語補助動詞をナサルに機械的に置き換えているためであり、現代語の尊敬語の体系的習得ができておらず、現代語として〈オ+サ変動詞以外の和語動詞+ナサル〉〈サ変動詞以外の和語動詞+ナサル〉という尊敬語形が適当であるかを判断するに至っていないためであると推測される。

注

- (1) 浅川・竹部 (2014)。
- (2) 庵ほか (2000)・庵 (2001)・富田 (2007)・小林 (2008)・釜淵 (2009) 金子 (2014)。
- (3) 小学 6 年生の国語科の検定教科書 (例えば、2020 年発行『国語 六 創造』光村図書出版) にも、特定形・オ・ゴ～ニナル・助動詞レル/ラレルが示されている。
- (4) 接頭語オは原則的に和語に上接し、接頭語ゴは原則的に漢語に上接する。よって、漢語サ変動詞はオ～ニナルの形 (例：お利用になる) にはならない。また、外来語+スルもオ～ニナルの形 (例：おスケッチになる) にはならない (菊地 1994・1996)。このことから、オ～ニナルは概ねサ変動詞以外の和語動詞を尊敬語形にする形式であると言える。ただし、和語の擬態語+スル (例：はらはらする) もオ～ニナルの形にはならず (菊地 1994・1996)、連用形が 1 音節の和語や意味的に敬語となじまない和語などもオ～ニナルの形にはならない (菊地 1994・1996)。小椋 (2019) には「菊池 (1996) では、「お～なさる」を「話す」「調べる」などのサ変動詞にできない動詞 (×話しする/×調べする) を尊敬語にする形式としても位置付けている」とある。
- (5) 注 4 に同じ。
- (6) ただし、漢語サ変動詞であってものようにゴ～ニナル/ゴ～ナサルにできないもの (例：ご運転になる/ご運転なさる) もある (菊地 1994・1996)。和語の擬態語+スル・外来語+スルも「ごはらはらになる/ごはらはらなさる」「ごスケッチになる/ごスケッチなさる」とはならない (菊地 1994・1996)。
- (7) 注 6 参照。
- (8) 【表 1】【表 2】のうち助動詞レル・ラレルは他の形式に比して待遇の度合いが低い。また、「レル敬語さえ使えば十分だとは決していえ」ない (菊地 1996) ことを踏まえておく必要がある。
- (9) ただし、小椋 (2019) はオ/ゴ～ナサルは漢語サ変動詞の尊敬語化形式としても生産性が低いとも指摘している。
- (10) 地域 (方言) によってはオ～ナサル・～ナサルを使用する傾向にあるところがあるが、本報告では方言の影響については触れない。また、史的变化についても触れない。なお、

藤原（1978）には「ナサル」あるいは「ナサレル」をつかって、いろいろの場合に、第二者第三者に対する待遇敬意を表現することは、現代方言界で、全待遇敬意表現中、もっとも広くつよくおこなわれている」が、「今日、東京語を中心には、「オ～ニナル」式の言いかたが、「ナサル」関係の言いかたを追って、新たな勢力を得つつある。その、新共通語法としての全国的なひろまりも、そうとうなものと思われる。」とある。

- (11) 「古典語の接頭語「御」には」「美化語を作る機能はありません」（中村・大久保・碁石 2002）。よって、古典語の「御」は尊敬語か謙譲語Ⅰかのいずれかである。
- (12) 古典語の敬語の各分類区分を現代語のそれに対して同じ名称を与えてよいか否かについては本報告では触れない。ひとまず、現代語の5分類の名称で呼んでおくこととする。
- (13) 用例（4）・（5）は竹部（2020a）。
- (14) 源氏物語の思ホスと思スの待遇度の高低には不明な点がある（竹部 2020b）が、ひとまず、思ホス＞思スとしておく。
- (15) 一般的・日常的な現代語への置き換え作業を行おうとしたときに、尊敬語としてオ～アソバは通用の形式かという問題もある。なお、注釈書では玉上琢弥（1964）『源氏物語評釈』が思シメス・思ホスの現代語訳を「（お）思いあそばす」とするのを見る。
- (16) 現代語の「お／ご～申し上げる」は「お／ご～する」の敬度の高い表現」（菊地 1996）であるが、古典文の現代語訳では謙譲語Ⅰの訳出にはオ～申シアゲルをあてるのが慣例的である。
- (17) 「「なさる」の命令形とするが、「なさいませ」の下略とする考え方もある。」（『日本国語大辞典 第二版』「なさい」の語誌）
- (18) 「日本語史」を履修する3年生1名（言語学を専攻）と2年生2名（専攻未定）。古典文学や古典語を専門的に学ぶ者ではない。
- (19) 逐語訳ではなく意識の場合もあること等を含め、注釈書には問題点もあるという注意を与えたうえで参照するよう薦めてはいる。
- (20) Japan Knowledge (<https://japanknowledge.com/library/>) のデジタルコンテンツがある。
- (21) 『新全集』では概ね修正されている。
- (22) 本稿執筆者は、時代劇ふうに出された漫画・映画・ゲーム等の、時代劇ふうの言い回しの影響も一因としてあるのではないかと——古典であるから古めかしい表現にしようとして、漫画等を参考に時代劇（時代劇ふうのもの）に寄せているのではないかと——と考えてもいる。これらの影響の有無等の調査は今後の課題である。
- (23) 竹部（2020a）。

参考文献

- 浅川哲也・竹部歩美（2014）『歴史的变化から理解する現代日本語文法』おうふう
庵功雄（2001）『新しい日本語学入門 ことばのしくみを考える』スリーエーネットワーク
庵功雄・高梨信乃・中西久実子・山田敏弘（2000）『初級を教える人のために日本語文法ハンドブック』

ク』スリーエーネットワーク

小川誉子美・前田直子 (2003) 『日本語文法演習 敬語を中心とした対人関係の表現—待遇表現—』
スリーエーネットワーク

小椋秀樹 (2019) 「書き言葉コーパスに見る尊敬表現—「お(ご)～になる」「お(ご)～なさる」
をめぐって—」『日本語学』38-2

尾崎喜光 (2009) 『しくみで学ぶ! 正しい敬語』ぎょうせい

金子広幸 (2014) 『初級が終わったら始めよう 新にほんご敬語トレーニング』アスク出版

釜淵優子 (2009) 『マンガでわかる実用敬語 初級編』アルク

菊地康人 (1994) 『敬語』角川書店

——— (1996) 『敬語再入門』丸善ライブラリー

小林ひとみ (2008) 『初級が終わったら始めよう 新にほんご会話トレーニング』アスク出版

竹部歩美 (2020a) 「敬語指南書にみられる敬語解説の問題点」『言語の研究』6

——— (2020b) 「保坂本『源氏物語』における主体敬語オモホス」『言語の研究』7

富田英夫 (2007) 『教える前に確認しよう! 日本語文法の要点』くろしお出版

中村幸弘 (1989) 『生徒のための古典読解文法』右文書院 (中村幸弘 (1993) 『先生のための古典
文法 Q&A 100』(右文書院) 収録)

中村幸弘・大久保一男・碁石雅利 (2002) 『古典敬語詳説』右文書院

藤原与一 (1978) 『昭和日本語方言の総合的研究 1 方言敬語法の研究』春陽堂書店

文化審議会 (2007) 「敬語の指針」(https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/kokugo/hokoku/pdf/keigo_tosin.pdf)

付記

本報告は平成28年度科学研究費補助金学術研究助成基金助成金(基盤研究C)による研究課題
「『源氏物語』写本との比較から見た国宝『源氏物語絵巻』詞書の日本語学的研究」(課題番号
16K02731)の研究成果の一部、また、2020年度静岡県立大学国際関係学部・学部研究推進費「日
本語運用技術力の向上のための効果的教授法」の成果の一部である。

(たけべ・あゆみ 静岡県立大学)